

環境のために、
私たちができること。

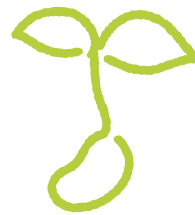


2001年度環境報告書



コカ・コーラウエストジャパン株式会社

環境好感度NO.1企業へ



目次

目次・会社概要 1

ごあいさつ 2

事業活動と環境影響 3

私たちの基本理念・行動指針 5

環境マネジメントシステム 6

省資源・省エネルギー 7

工場排出物の再資源化 8

空容器の回収・リサイクル 9

グリーン購入の推進 11

地域の環境活動 12

環境教育 14

環境会計 16

会社概要

(2002年6月30日現在)

コカ・コーラウエストジャパン株式会社

本社所在地：福岡市東区箱崎七丁目9番66号
 設立：1960年12月20日
 資本金：152億31百万円
 売上高：1,531億96百万円(2001年度)
 従業員数：2,152名
 主な事業内容：コカ・コーラ、スプライト、ファンタおよび
 ジョージア等の飲料の製造・販売
 事業所：98ヵ所

コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社

本社所在地：佐賀県鳥栖市轟木町字二本松1670-2
 設立：2002年2月1日
 資本金：1億円
 従業員数：362名
 主な事業内容：受託製造加工および商品の仕入代行
 工場：本郷工場、鳥栖工場、基山工場

対象範囲

コカ・コーラウエストジャパン株式会社
 コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社

※)2002年2月1日、コカ・コーラウエストジャパン株式会社は、製造部門を別会社化。
 新たにコカ・コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社が設立されました。

※)2002年4月1日、コカ・コーラウエストジャパン株式会社、山陽コカ・コーラセールス
 株式会社、北九州コカ・コーラセールス株式会社は合併しました。

対象期間

2001年1月1日～2001年12月31日
 (掲載項目の中には、一部対象期間外のものも含まれています。)

次回発行予定
 2003年3月頃

本年度まで毎年8月に発行してまいりましたが、来年度以降は
 3月発行に変更します。

ごあいさつ

人間と自然が調和する、豊かな社会の実現に貢献します。

私たちは多くの人々に愛され、親しまれる事業の展開を通して、企業市民としての責任を自覚し、人間・社会・自然の調和を常に大切にしております。さらに、お客さまや地域社会に対する使命として、環境美化・環境保全・資源のリサイクルに全社員が一丸となって取り組み、安心して暮らせる豊かな社会の実現に貢献したいと考えております。

すべての社員のこうした強い自覚と責任のもと、本社・工場部門でのISO14001の認証取得、全工場でのゼロエミッション達成、さらには地域環境対策積立金の設定による環境貢献など、さまざまな活動を行ってまいりました。今後は、全事業所へのISO14001認証取得範囲の拡大などを視野に新たな一歩を踏み出します。

この「ECO REPORT」の発行も今年で3年目を迎えました。今回より、環境保全活動についてのコストと効果を対応表示する「環境会計」を取り入れ、紙面の一層の充実化を図っております。ご一読いただくとともに、ご意見・ご指導をいただければ幸いと存じます。



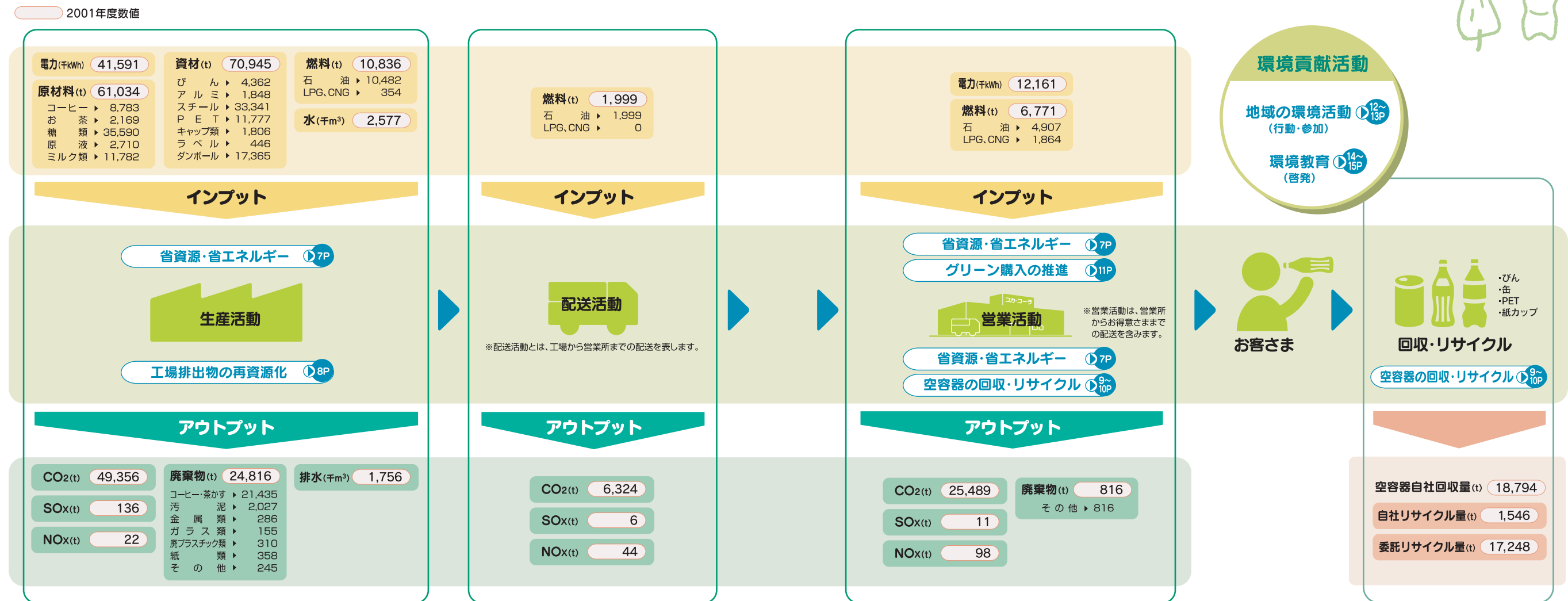
代表取締役
 社長兼CEO

末吉紀雄

事業活動と環境影響

環境負荷を低減させる事は私たちの責任です。

当社の事業活動全体の流れ、およびその事業活動に伴う資源等の投入（インプット）と不要物等の排出（アウトプット）の概要を以下の図に示しました。



私たちの基本理念

「環境好感度No.1企業へ」

コカ・コーラウエストジャパン株式会社は、責任ある企業市民としての自覚のもとに、人間・社会・自然の調和を常に大切にしながら事業活動を推進します。環境美化・環境保全・資源のリサイクルに努めることは、お客さまや地域社会に対する当社の責務であると認識し、全社員がそれぞれの職場で自ら責任を持ち、安心して暮らせる豊かな社会の実現に貢献します。

私たちの行動指針

クリーンで安全な商品・サービスを提供します。

省資源・省エネルギーに努め、リサイクルを推進します。

資源の再利用に配慮した、環境にやさしい資材を調達します。

地域の環境活動に積極的に取り組みます。

環境教育による意識の向上に努めます。



クリーンで安全な商品・サービスを提供します。



環境マネジメントシステム

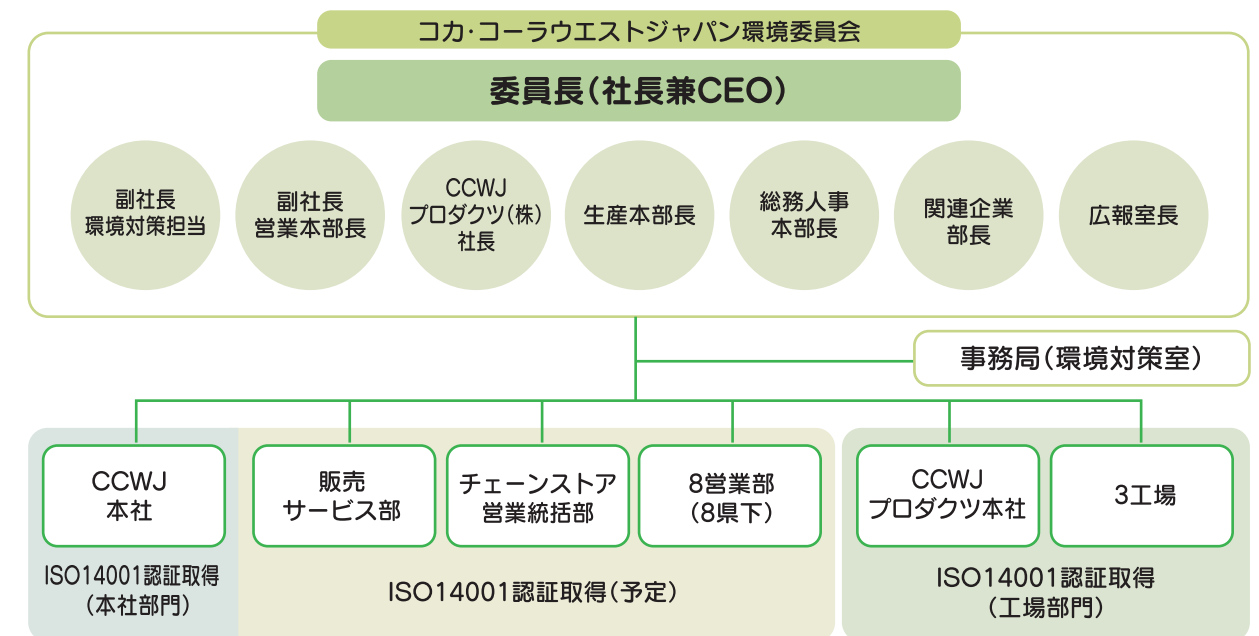
環境保全活動を組織的に推進します。

1999年に全工場部門で、2000年に本社部門において環境マネジメントシステムに関する国際規格であるISO14001を認証取得しています。今後は、全事業所への認証取得範囲の拡大を予定しています。さらに、コカ・コーラグループが独自に設計した環境マネジメントシステムである「eKO（イーケオー）システム」の導入を視野に入れており、清涼飲料業界独自の諸条件を考慮した、効率的・効果的な環境保全を推進する基盤の強固を目指しています。



●ISO14001登録証(工場部門) ●ISO14001登録証(本社部門)

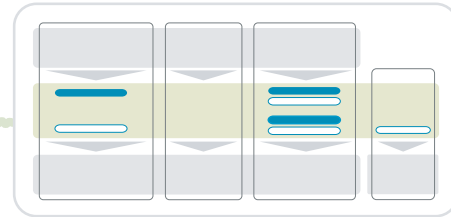
環境保全推進組織



省資源・省エネルギー

天然資源の効率的利用のために。

地球温暖化の防止、天然資源の効率的利用のために、事業活動のあらゆる場面において省資源・省エネルギーに取り組んでいます。

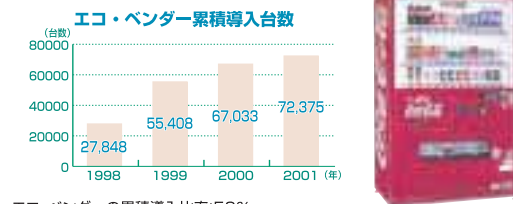


省資源・省エネルギー促進活動

場所	項目	単位	2000年実績	2001年実績	対前年削減率
工場部門	用水	(ℓ/Uケース)	29.2	26.6	8.9%
	工場用電力	(kWh/Uケース)	0.408	0.429	△5.1%
	LPG(焙煎用)	(kg/t)	92.9	88.6	4.6%
	重油	(ℓ/Uケース)	0.133	0.124	6.8%
本社部門	コピー用紙	(千枚:A4換算)	5,219	4,303	17.6%
	電力(空調・照明用)	(千kWh)	1,591	1,620	△1.8%
	自動車用燃料	(ℓ)	104,270	87,590	16.0%

Uケース:(注)・工場部門については、原単位指標(生産単位あたりの使用量)で数値管理しています。
 ・1Uケース:約5.68ℓ
 ・△は、使用量が対前年比で増加したことを示しています。

当社が導入を推進している「エコ・ベンダー」は、学習省エネ機能によるファンコントロール制御、高い断熱性をもち冷気を逃がしにくい構造を持つ環境配慮型自動販売機です。「エコ・ベンダー」はさらに、オゾン破壊係数ゼロの冷媒R407Cの採用、PETボトルのリサイクル材の使用、インバーター方式の蛍光灯の採用など、様々な点で環境に配慮しています。



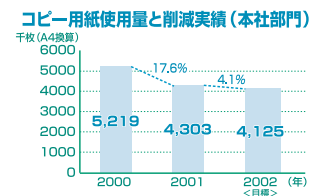
エコ・ベンダーの累積導入比率:52%
 72,375台(累積導入台数) / 137,984台(2001年度末総台数)

二酸化炭素および大気汚染物質の排出を削減するため、保有車両のハイブリッド自動車、天然ガス自動車への切り替えを進めています。



■累積導入台数
 ・ハイブリッド自動車:4台 ・天然ガス自動車:9台

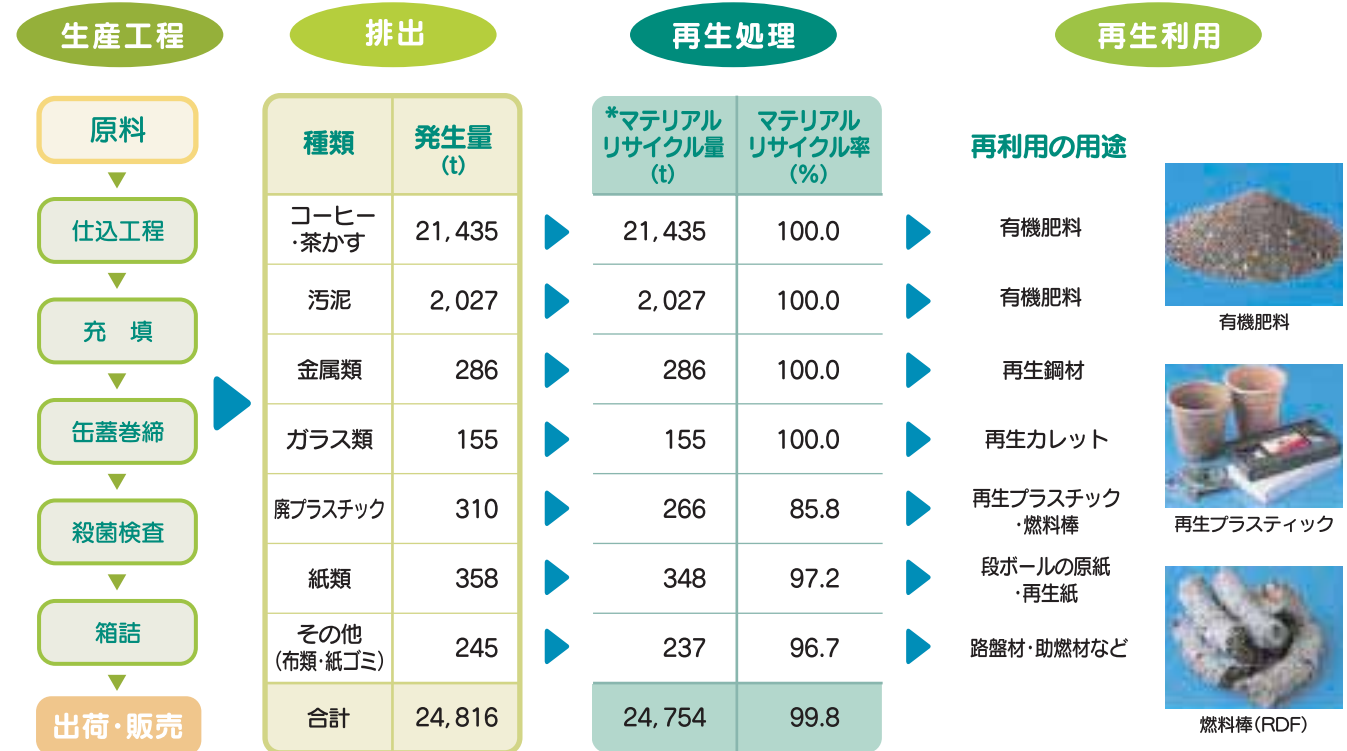
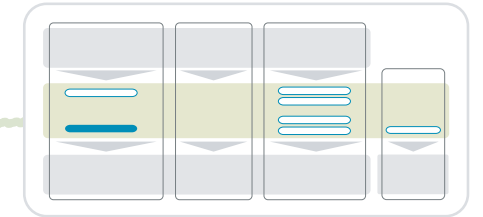
社内文書のメール化促進や裏面活用などを積極的に推進し、紙の使用量削減に努めています。



工場排出物の再資源化

ゼロエミッションを全工場で達成しています。

コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ(株)の本郷、鳥栖、基山の3工場では、1998年に、生産工程で発生する廃棄物の99%以上をリサイクルする「廃棄物ゼロエミッション」を達成しております。これらの工場ではリサイクル推進と共に、今後もクリーンで安全な商品の生産を継続していきます。

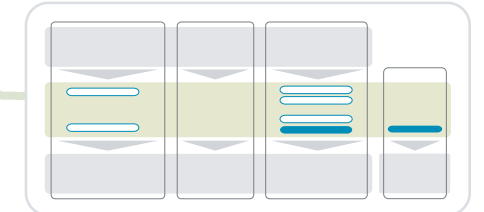


*マテリアルリサイクル:不要物を再生処理し、物質として再利用すること。

から 空容器の回収・リサイクル

から
不要となった空容器を有効利用するために。

限りある資源を有効利用するため、不要となった空容器を回収し、
ふたたび有用なものに変えるよう事業活動の様々な場面で取り組んでいます。



環境に配慮した 容器の開発

効率的なリサイクルを達成するためには、回収、分別、再資源化といったプロセスに注力するだけでなく、回収後の再資源化を効率的に行えるように製品容器をデザインすることが重要となります。この考えから、製品の容器には様々な環境配慮が施されています。

環境にやさしい 容器の開発

缶 軽量化により、配送・回収輸送時の燃費向上に配慮しています。

紙カップ インクの種類や量を削減し、省資源化・リサイクルに配慮したものを採用しています。

PET リサイクルしやすくするため、透明PETボトルへの転換および本体と同材質のキャップ・ラベルの採用を推進しています。

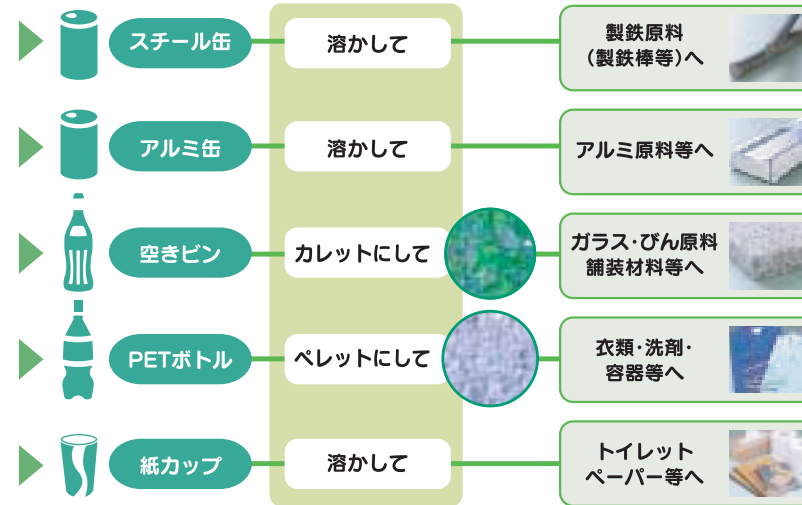
から 空容器回収体制の整備 -エコリカバーシステム-

自動販売機横に設置しているゴミ箱からの空容器の回収を確実に、そして効率的に行うためのエコリカバーシステムのテスト導入を進めています。現在、テスト地域を設け、サービスマンが専用カーを使ってエコレートと呼ばれるコースを回り、回収作業を行っています。



リサイクル業者

リサイクル製品



自社施設によるリサイクル -エコリサイクルステーション-

主要事業所内に、使用済みのビンと缶を選別し、処理する施設、エコ・リサイクルステーションを設置しています。スチール・アルミ缶はインゴットにして製鋼メーカーに納入、ガラスびんは業者によりカレットにされ飲用ビンに再生されています。

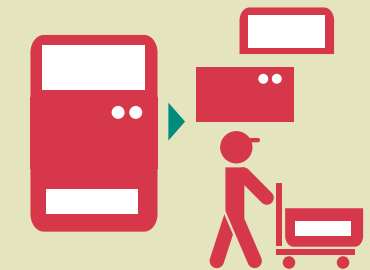
エコ・リサイクルステーション リサイクル量(9カ所)

2001年度実績
スチール缶 1,187t
アルミ缶 111t
PET 248t



自動販売機の リサイクル・適正処分

やがては老朽化する自動販売機、当社ではそれらについての環境配慮も怠りません。廃棄される自動販売機の電池や蛍光灯などを事前選別し、出来る限りリサイクルしています。またオゾン層保護のため、冷媒として使用されているフロンは100%回収し、適正に破壊処理しています。



自動販売機の廃棄台数およびフロン回収量

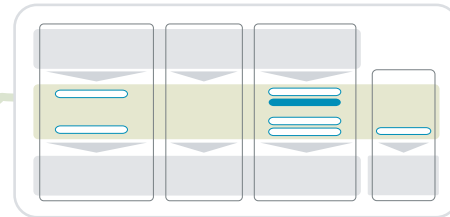
	1999年	2000年	2001年
廃棄台数(台)	17,177	10,154	11,462
フロン回収量(kg)	1,670	1,913	2,141

資源の再利用に配慮した、
環境にやさしい資材を調達します。

グリーン購入の推進

環境に配慮した資材の調達。

私たちは、ごみをリサイクルして作られた製品や、使用后捨てる時にリサイクルしやすい製品など、環境配慮製品を優先的に購入するグリーン購入を推進しています。これは、環境保全に取り組む企業としての責任の一環であり、循環型社会構築へ向けた役割のひとつと捉えています。



(単位:千円)

紙類	
グリーン製品	4,840
非グリーン製品	0
グリーン購入比率	100%

印刷物	
グリーン製品	29,550
非グリーン製品	3,210
グリーン購入比率	90%

文具類	
グリーン製品	1,120
非グリーン製品	0
グリーン購入比率	100%

制服	
グリーン製品	44,050
非グリーン製品	8,500
グリーン購入比率	84%

空容器回収箱	
グリーン製品	26,520
非グリーン製品	0
グリーン購入比率	100%



地域の環境活動

行動し、参加することが、環境意識の芽を育みます。

事業所周辺の清掃活動を通じての自己啓発 —コカ・コーラクリーンデー—

毎月8日、事業所周辺の公園等において当社の社員が清掃活動に動んでいます。この取り組みは、周辺地域の美化だけでなく、社員一人ひとりが環境問題に対する自己啓発を行うことをもねらいとしています。



●公園での清掃活動



地域連携美化活動への参加・支援 —アダプトプログラム—

アダプトプログラムとは、自治体、市民および地元企業が協力し合い、空き缶が散乱しやすい公共スペースを選んで清掃等の環境美化活動を行う取り組みをいいます。2001年、当社は福岡市立箱崎中学校での美化活動を支援しました。2002年には、約2,000名(70団体)が参加する、福岡市空き缶・びん対策協会によるアダプトプログラムを支援します。



●箱崎中アダプトプログラム

地域の環境活動に積極的に取り組みます。



環境機材の贈呈

空き缶プレス機を、宇部市常磐公園に2基、きらら浜公園に2基、そして宇部フロンティア大学に1基贈呈いたしました。当社は今後も、このような環境保全につながる機材の贈呈を継続していく予定です。

地域環境美化活動 —ラブアースクリーンアップ活動—

ラブアースクリーンアップ活動は、「私達の街をきれいにしよう。日本で最も美しい街にしよう」をキャッチフレーズに、環境省が毎年6月に後援して行っている地域環境美化活動です。2001年も様々な場所で社員が参加しました。



●福岡 大濠公園



●広島 県庁周辺

地域の環境活動に積極的に取り組みます。

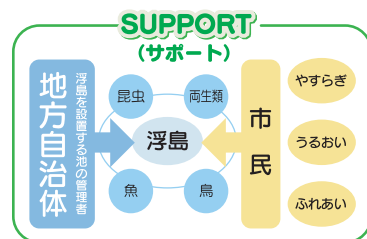
地域の環境活動

私たちは、皆様の環境活動を応援します。

市民に憩いの場所を提供する —ビオトープ設置事業—

ビオトープとは、野生生物の生息空間のことです。緑と昆虫や水生生物が共生する環境は、周辺市民にとってやすらぎと憩いの場となることでしょう。2001年、当社は広島市安佐動物園内と岡山県サウスビレッジ、ファーマーズワーク内の池にそれぞれ、植物や花を植栽した人口の浮島「ビオトープアイランド」を設置しました。

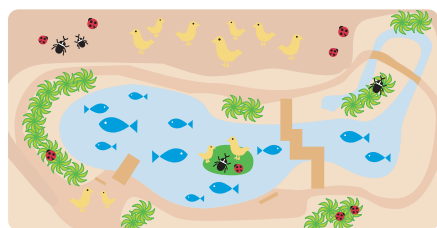
2002年には、新たに小学校の環境教材として活用していただきたいという願いから、ビオトープを福岡市の3校、長崎市の1校、広島市の1校に寄贈します。各小学校では、計画段階から図面作成、校庭内での施工等までを児童・教師・父兄とが共同で行い、ビオトープを創りあげることになっています。



●学校ビオトープで遊ぶ子供たち



●広島市のビオトープアイランド



●学校ビオトープイメージ

北九州博覧祭2001へ参加



●北九州博覧祭「こどもエコ広場」

当社環境保全活動の紹介 —広島フラワーフェスティバルへの出展—

毎年ゴールデンウィークに広島で開催されるフラワーフェスティバルのさわやかエコ広場に、当社の環境への取り組みを展示しています。ご覧になった後、出来るだけ多くの人に環境保全に共に取り組む意欲をもってもらえるように、全ての来場者の皆様にとってのわかりやすい展示を心がけています。



●自然生物ざいごころゲームを実施



●ビオトープに住む水生生物を展示

環境教育

環境意識の向上を通じて、環境保全活動の輪が広がります。

子供たちの自然観察の支援 —エコロジー調査隊事業—

エコロジー調査隊事業では、子供たちに町の中にある身近な自然環境を観察する機会を提供しています。春休みや夏休みを利用して自然の営みに触れ、感じたことについてレポートを提出してもらうことにより、年少期からの環境保全意識の向上を図っています。2001年は、福岡、佐賀、山口県下の小学生660名が参加しました。2002年は、福岡、長崎および広島県下での実施を予定しています。



●エコロジー調査隊マニュアル



●調査隊に参加した子供たち



環境教育による意識の向上に努めます。



植林事業

人の心に安らぎをあたえると同時に、自然のすばらしさを実感させてくれる木々の緑、この緑を育むため、当社は2001年、「福岡県世界こども愛樹祭コンクール」記念植樹に協賛いたしました。2002年は、小・中学校での植林事業を展開しています。この活動ではまず、育苗ポットに植栽した苗木(どんぐり、山桜)を小・中学校に寄贈し、子供たちにその里親になっていただきます。その後5～6ヵ月で大きな苗木に育て、山に植林することにより緑の大切さおよび自然への愛着心を育てることをねらいとしています。



●寄贈された苗木を持つ小学生

海の環境保全の支援 —全国豊かな海づくり大会プレイベント協賛—

「豊かな海づくり大会」は、水産資源の保護・育成と共に、海の環境保全に対する市民の意識高揚を目的とした国民的行事です。2001年11月、長崎県佐世保市の白浜海水浴場でプレイベントに協賛し、県内の親子約200名に参加していただいて海浜清掃や環境学習、稚魚の放流等を行いました。

2002年には、同会場で本イベントが開催されます。



●豊かな海づくりを学びました



●海浜清掃活動

環境教育による意識の向上に努めます。

環境教育

環境意識の向上は環境活動の第1歩です。

自治体や地元メディアとの協力 —赤とんぼの街づくり運動—

赤とんぼの街づくり運動は、自治体や地元メディアと協力して行う、景観保全とリサイクルをテーマとしたエコロジー運動です。赤とんぼをメインキャラクターとした写真大会やリサイクル環境学習への参加を通じて、子供たちに自分たちの住んでいる街の自然を良く知ってもらい、日常的に環境保全への意識を高めてもらうことを目的としています。2001年は、倉敷市、島原市で開催し、今後も活動の輪を広げています。



●写真大会風景—倉敷市



●PETリサイクルの学習を行いました

自然体験を通じた環境啓発プログラム —コカ・コーラエコロジースクール—

自然環境教育専門家の指導のもと、山林にある自然と共生する楽しさを体験する中で、子供たちに自然を大切にすることを学び育ててもらった実践的なプログラムです。2001年は広島県で開催し60名の生徒が貴重な体験をしました。また、このプログラムを実行していくうえで必要な環境教育活動指導者、エコロジースクールリーダーの育成を目的としたトレーニングプログラムも実施しています。



●コカ・コーラエコロジースクールに参加した子供たち

コカ・コーラ環境教育財団

コカ・コーラ環境教育財団は、環境関連分野に関わる人々への啓発、支援活動のほか、コカ・コーラ環境教育賞を創設し、環境教育・保全に携わる個人や団体の表彰、および環境教育の助成を行っています。



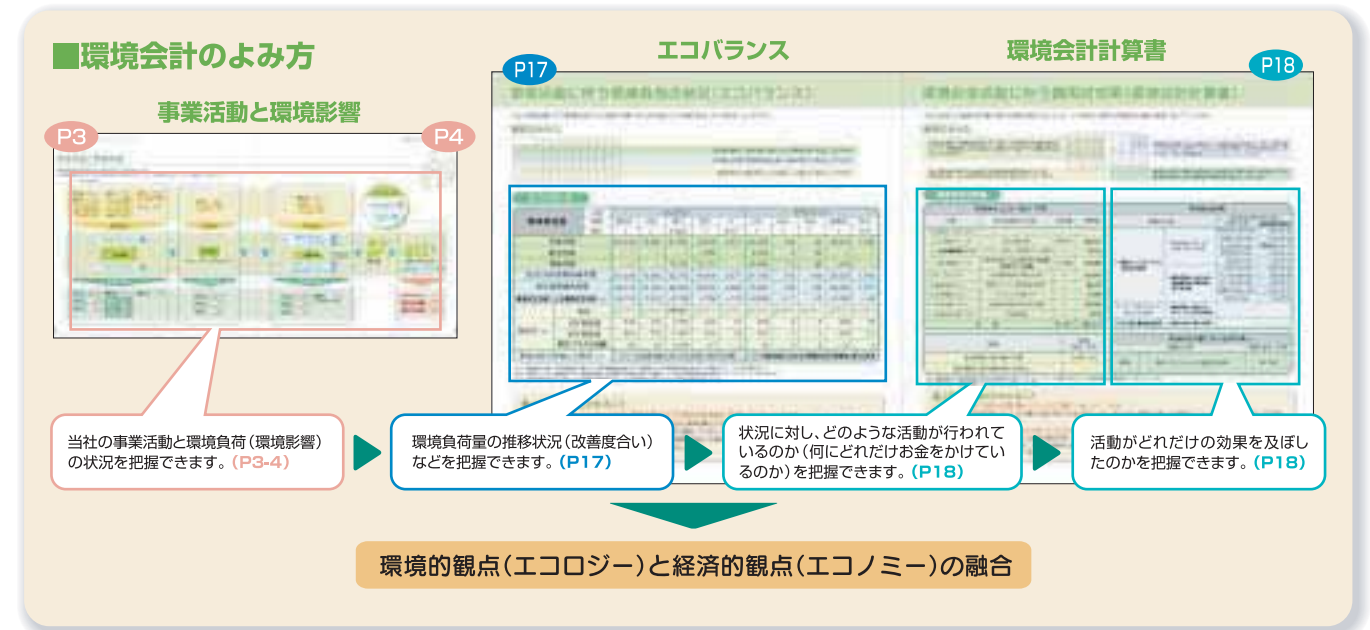
●毎年、東京で受賞者グループを表彰



環境会計

環境活動についてのコストと効果の対比(環境経営の成績表)

当年度より環境会計を取り入れました。企業としての環境保全の責務を確実に果たしていくためには、環境保全活動をより効率的・効果的に展開していく必要があります。環境保全活動に伴う費用額や投資額を全社的に取りまとめ、さらにその効果を対比させるという環境会計は、「エコロジーとエコノミーの融合」をもたらすツールといわれています。この環境会計を有効に活用し、今後の環境保全活動を適切に推進していきたいと考えています。



環境会計処理基準

分類	項目	内容
集計にあたっての前提条件について	集計対象範囲と集計対象期間	集計対象範囲(2社)：●コカ・コーラウエストジャパン株式会社 ●コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社 ※ただし、一部配送活動については関係会社および外部委託会社の資料にもとづいています。 集計対象期間：2001年1月1日～2001年12月31日
	参考にしたガイドライン等	「環境会計ガイドライン 2002年版」(環境省)「事業者の環境パフォーマンス指標 -2000年度版-」(環境省)を参考にしています。
環境保全コストについて	減価償却費の集計方法	減価償却費は、環境保全コストの各分類における費用額に含めて計上しています。また、耐用年数や償却方法についてはすべて財務会計と同一としています。
	複合コストの計上基準	原則的には差額集計を採用していますが、必要に応じて按分集計、簡便集計を採用しています。
	人件費の計上基準	環境保全活動における所要時間に全従業員の年間平均人件費単価を乗じて算出しています。
環境保全効果について	環境保全効果の把握方法	該当する環境パフォーマンス指標について、当年度と基準期間(前年度)の実績値を単純比較することによって算定しています。
経済効果について	費用節減額について	実質的效果のうち費用節減額については「確実な根拠」が十分でないことから、計上していません。

事業活動に伴う環境負荷の状況(エコバランス)

当社の事業活動に伴う環境負荷量やその原単位指標、および前年度からの改善の度合いなどを見ることができます。

■表のみかた

.....	各事業活動別の(生産・配送・営業ごとの)環境負荷量を見ることができます。
.....	当年度と前年度の環境負荷量を比較し、改善の度合いを見ることができます。
.....	環境負荷量の改善の度合いを、原単位という観点から見ることができます。

エコバランス

環境負荷量	分類	インプット					アウトプット				
	項目	原材料	資材	電力	燃料	水	CO ₂	SO _x	NO _x	廃棄物	排水
	単位	t	t	千kWh	t	千m ³	t	t	t	t	千m ³
生産活動		61,034	70,945	41,591	10,836	2,577	49,356	136	22	24,816	1,756
配送活動		-	-	-	1,999	-	6,324	6	44	-	-
営業活動		-	-	12,161	6,771	-	25,489	11	98	816	-
合計(当年度環境負荷量)		61,034	70,945	53,752	19,606	2,577	81,169	153	164	25,632	1,756
前年度環境負荷量		54,319	63,729	48,024	18,872	2,403	76,641	142	159	20,250	1,707
環境保全活動による環境保全効果(注1)		△6,715	△7,216	△5,728	△734	△174	△4,528	△11	△5	△5,382	△49
原単位(注2)	単位	g/Uケース	g/Uケース	kWh/Uケース	g/Uケース	ℓ/Uケース	g/Uケース	g/Uケース	g/Uケース	g/Uケース	ℓ/Uケース
	当年度数値	630	732	0.555	202	27	838	2	2	265	18
	前年度数値	660	775	0.584	229	29	932	2	2	246	21
	差引(プラスは改善)	30	42	0.029	27	3	94	0	0	△19	3
環境会計計算書との関係(注3)		(1)-①事業活動に投入する資源に関する効果					(1)-②事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果				

(注1)「環境保全活動による環境保全効果」とは、前年度環境負荷量から対象期間における環境負荷量を差し引いた数値をいう。プラスは改善を示す。
 (注2)「原単位」とは、対象期間における環境負荷量を当該期間の生産量で除した数値をいう(単位は各環境負荷物質単位/Uケース:1Uケース=約5.68ℓ)。
 (注3)「環境会計計算書との関係」とは、環境会計計算書(次ページ)の環境保全効果における「効果の内容」を示している。

■上記の結果からわかること

原単位指標が改善していることから、事業活動に伴う環境負荷を順調に低減しているといえます。

環境負荷量は前年度と比較して全般的に増加していますが、これは当社の事業活動がより活発になったためです。原単位で見れば廃棄物を除くすべての項目について一定の改善が見られることから、当社の環境保全活動は有効に機能しているといえます。

なお、廃棄物の原単位が改善されていないのは、製造工程において廃棄物の排出が比較的多いコーヒー飲料の製品構成に占める割合が高くなったためです。(その廃棄物のほぼ全量が有機肥料などの形でリサイクルされています。)

環境保全活動に伴う費用対効果(環境会計計算書)

当社の実施した環境保全活動の費用対効果を開示するとともに、より効率的・効果的な環境保全活動の推進に役立てていきます。

■表のみかた

.....	当年度に実施した環境保全活動に伴い発生した費用額や投資額が記載されており、環境問題に対する当社の企業努力の内容やその規模を読み取ることができます。
.....	事業活動を展開する中で軽減された環境負荷量が記載されており、環境問題に対する当社の企業努力に対応した成果や費用との関係を読み取ることができます。なお、記載数値はエコバランスとリンクしています。
.....	他の事業活動も含めた投資総額、研究開発費総額が記載されており、事業活動全体に占める環境保全活動の割合を読み取ることができます。
.....	環境保全活動の実施の結果得られた経済的な効果(収益)が記載されており、環境保全活動に伴う負担軽減の程度を読み取ることができます。

環境会計計算書

環境保全コスト(単位:千円)				環境保全効果			
分類	主な取組みの内容	投資額	費用額	効果の内容		環境保全効果を表す指標	
						指標の分類	
						指標の値(原単位)	
(1)事業エリア内コスト				(1)事業エリア内コストに対応する効果	①事業活動に投入する資源に関する効果	原材料投入量の減少	30g/Uケース
①公害防止コスト	排水処理活動	64,017	296,237			資材投入量の減少	42g/Uケース
②地球環境保全コスト	エコカーの導入、自販機フロン破壊	-	15,124			電力使用量の減少	0.029kWh/Uケース
③資源循環コスト	リサイクルステーションでのリサイクル活動、その他リサイクル活動	21,650	245,585			燃料使用量の減少	27g/Uケース
						水使用量の減少	3ℓ/Uケース
(2)上・下流コスト		空容器再商品化委託負担金	-			297,649	CO ₂ 排出量の減少
(3)管理活動コスト		環境イベント、環境報告書制作	-	50,422	SO _x 排出量の減少	0g/Uケース	
(4)研究開発コスト		エコルート運営(注1)	-	13,044	NO _x 排出量の減少	0g/Uケース	
(5)社会活動コスト		地域環境活動支援、緑化活動	-	142,942	廃棄物排出量の減少	△19g/Uケース	
(6)環境損傷対応コスト		汚染賦課金	-	8,216	排水量の減少	3ℓ/Uケース	
合計			85,667	1,069,219			
				環境保全活動に伴う経済効果(注2)			
				効果の内容		金額(単位:千円)	
				収益	廃品リサイクルによる有価物売却額	22,187	
項目		金額(単位:千円)					
当該期間の投資額の総額		8,445,932					
当該期間の研究開発費の総額(注1)		-					

(注1)財務会計上の研究開発費に該当する項目はありませんでしたが、エコルート運営に関わるコストを環境保全研究開発費として計上しています。
 (注2)経済効果は、「確実な根拠」が十分なもののみを計上しています。

■上記の結果からわかること

(1)事業エリア内では排水処理活動とリサイクル活動に力をいれています。

費用額で見れば、排水処理とリサイクル活動で全体の約50%を占めています。多くの水と容器を必要とする飲料メーカーとしては、環境面においても特に高レベルの取り組みを実施しています。

(2)事業エリア外では社会貢献活動に力をいれています。

費用額における社会活動コスト(費用額)の占める割合が高く、当社の地域社会への貢献の姿勢が費用的な側面にもはっきりと現れています。ただ、事業エリア内の活動とは異なり、その効果の把握については技術的に難しい部分が多く、現状ではこれを行っていません。社会貢献活動の費用対効果の関係を明らかにしていくことは今後の課題と考えています。



コカ・コーラウエストジャパン株式会社
Coca-Cola West Japan Company, Limited

ご意見・ご感想は、下記までお聞かせください。

コカ・コーラウエストジャパン株式会社 環境対策室

〒812-8650 福岡市東区箱崎七丁目9番66号 TEL (092) 641-9118 FAX (092) 632-6809 ホームページ <http://www.ccwj.co.jp/>

